

キャンパスアジア ソウル大学留学報告書

ユンミレ

自己紹介

この度はキャンパスアジアの留学プログラムを通して韓国のソウル大学に交換留学させていただきましたユンミレと申します。

現在は東京大学教養学部教養学科で言語学を専攻している韓国出身の留学生です。

私は韓国の高校を卒業し、その後は日本政府の国費留学生として選抜され東京大学に正規入学しました。そして今回の留学プログラムに伴い、残り3ヶ月弱の国費留学生の身分を辞退するなど、いくつか必要な手続きを済ませてからソウル大学に留学させていただきました。

卒業論文では韓国と日本の大学の英語教育のカリキュラムを比較分析し、その事例としてソウル大学と東大の異なる英語教育制度を取り上げ、教育政策を研究しています。

留学の手続き

キャンパスアジアに選抜されるためには、まずは学内選考を通る必要があります。その次はソウル大学に自ら交換留学のアプリを、またそこから合格する必要がありますが、東京大学から推薦された人は基本的にソウル大学の自由専攻学部で受け入れてくれるので、提出書類に不備がないようにすれば問題ありません。

そしてしばらく待つと、ソウル大学から合格のメールと紙の合格証が届きます。交換留学生として合格したこと、そして今後のスケジュールと提出書類、ビザなど必要なことを英語で説明してくれます。その他にもわからないことがあったら向こうの担当者にメールで問い合わせたら親切に回答してもらえます。その後も寮の申請期間と申請方法、留学生のための交流団体からの入会案内、履修の方法など必要な情報が次々と送られてきます。

韓国に渡航し、オリエンテーションに出ると韓国の銀行口座を作ってくれたり、他に必要な手続きを済ませてくれます。

学期が始まると、まずはソウル大の学生証(S-card)を作る必要があります。学生証にはクレジットカード機能がついているものと、ついていないものの2種類がありますが、交換留学生はついていないものしか発行してもらえません。学生証係の事務室で書類を作成し、証明写真を提出したら、その場で発行してもらい、mySNU ウェブサイトで登録することによってすぐ使えるようになります。また、mySNU のモバイルアプリをダウンロードすると、電子学生証のQRコードが使えます。

履修登録

スガンシンチョンといわれる韓国の履修登録は日本とはシステムややり方がやや異なります。先着順で履修可能人数が埋まっていくので、人気のある授業は履修登録

が始まって10分で定員に達してしまうこともよくあります。なので、履修登録の日は朝6時に起きて、開始時間の8時に合わせてソウル大生はみんなホームページに入る待機をしているというのも韓国独特の履修登録の特徴です。このようなやり方は留学生も例外はありませんので、履修登録のウェブサイトの操作に慣れておいた方がいいと思います。履修登録するために早起きをして頑張ってクリックしてください。履修登録のウェブサイトは慣れるまで少し時間がかかるので、時間と計画に余裕をもってどういう授業を取りたいか考えておくことが大事です。もし取りたい授業を登録し損ねた場合でも、チョアンジという、この授業を取りたいとの旨のメールを教授に送ってお願いすると、履修を認めてもらえる場合も多いので参考にしてください。特に留学生である場合、自分が取りたい授業が取れなかった場合は積極的に履修を認めてもらえるように自分から教授にお願いをした方が後悔のない留学生活になるでしょう。

授業について

私がソウル大学で受講した授業は三つです。

一つ目は **Media Anthropology**(メディア人類学)という、留学生のための英語の授業でした。交換留学生や研究生が主に受講していたため、駒場の **PEAK** の授業のような感じでした。受講人数は50人くらいでやや多かったのですが、広告や新聞など、様々なメディアと人類学の研究論文をあらかじめ読んできて、授業では講義を聞いて小グループで議論するというような授業でした。毎週リーディングを読み、授業の二日前にオンラインのフォーラムで論文についての質問を必ず投稿しなければいけないのと、授業中も英語でクラスメイトと英語で論文について議論することが多かったのも、とても重い授業ではありました。

二つ目は日本の民主主義とメディアという専門の授業でした。アジア言語文明学部という新設の学部で開講された日本社会についての授業でしたが、日本専攻の学生が多かったため内容はかなり濃かったです。日本の近代化の歴史とその過程におけるメディアの果たした役割、日本における市民社会と市民の概念の発達について暑かった授業でしたが、専門の授業ということもあり、韓国から見た日本の近代史の理解や、韓国人大学生の考えが垣間見えたいい授業でした。私が取った授業だけがそうだったかもしれませんが、ソウル大の授業は東大の授業より学生がより積極的に質問したり、授業に参加しようとする姿勢が見受けられました。また、教授も学生からの質問や授業中に議論の時間を設けることが当たり前になっていたのも、東大の授業より自由さを感じました。

中間試験と期末試験はあらかじめ公開された三つの小論文のテーマのうち、二つが実際のテストに出て、それらのテーマについて論述するような形式でした。かなり専門性の高い授業でしたが、韓国において日本がどう語られているか知るいい機会でした。

最後に、言語と人類学の授業をとりました。これは、人類学科で開講された授業で、人類学と言語学の基本的な理論的背景を説明しながら論文を読み進める授業でした。韓国の大学は教授と学生との関係が親密で、この授業の場合人類学科の必須の授業でしたので高校のクラスのようにワイワイした雰囲気でした。それでも内容

はかなり専門的な内容になる上に、毎週読んでいけないといけない文献を読むことでも大変な課題量になりました。

私は韓国語が母語なので、自由に韓国語の授業を履修することができましたが、韓国語学習者がソウル大で韓国人学生を対象に開かれている授業を履修するためには、TOPIK 6級以上の実力でないと大変だと思われます。また、韓国の大学は日本の大学よりも一個一個の授業が重く、ほとんどの授業では中間試験と期末試験、発表、グループ発表、小論文などが課されます。それでも外国語で授業を取ることは外国語の実力を伸ばすもっとも手っ取り早い方法でもあるので、語学堂で韓国語の基礎を鍛えてから、韓国語の授業を取ることは韓国語の上達にもつながる早道であることには間違いありません。また、専門の授業以外にも留学生の履修を想定した英語の授業や、教養科目の簡単な授業もあるので、一般の授業を全く取れないというようなことはありません。

もし授業を取る中で、例えば韓国語のレポートの書き方がわからない、またはレポートを添削して欲しいなど、学業面において助けが必要な場合は、ソウル大学の留学生のための学業の支援制度も整っているので利用してみるといいでしょう。例えば、留学生のみならず韓国人学生でもレポートの書き方や添削が必要でライティングセンターに通ったり、チューター制度を利用する人はたくさんいます。それ以外の方法だと、SNU Buddyなどで作った韓国人の友達に添削やアドバイスをお願いするのも良いかもしれません。

食事

基本的には大学の学食をよく食べることになるかと思います。ソウル大の学食は駒場と違ってキャンパス内にもいくつかあって、毎日メニューが入れ替わるので飽きることなく食べることができます。また、昼食と夕食のメニューも違うので学食ごとの今日のメニューも식사という専用のソウル大アプリで確認することができます。

自炊は、一応寮でも料理はできますが、環境的にとても自炊しやすい環境ではないかもしれません。

学食以外で食事をするためには、キャンパス内にあるレストランで食べるか、ソウル大入口駅まで山を降りて行って、駅の周辺の繁華街で食べることになります。最近ではシャロスギルといって、ソウル大駅とナクソンデ駅の間の道に続々と新しいレストランやカフェが進出してきました。多くのソウル大生は授業が終わったらここで夜友達とご飯をすることが多いです。



ネット・通信

日本で普段使っていた iPhone をそのまま韓国に持って行って使うためには、日本以外の国でも使えるように sim ロックを解除する必要があります。この解除ができるかどうかはキャリアごとにポリシーが異なるので、事前に確認した上で韓国でも使えるスマホを持って行くことが大事です。iPhone を解除してから行くか、留学先で使う sim free の新しいスマホを買う必要があります。韓国で使えるキャリアは格安 SIM の hellomobile がありますが、2年縛りもなく、格安プランを選べます。また、韓国は基本的に街中に Wi-Fi が溢れていて、どのカフェに行ってもカフェ専用の Wi-Fi と電源があるので、カフェで一日中作業したり充電しながら Wi-Fi を使うことができます。

ソウル大関連の便利なアプリ

서울대캠퍼스맵 キャンパスマップのアプリ。

서울대도서관앱 図書館アプリ。借りた本の管理や学習室の席の予約もできる

마이스누 mySNU QRコードの学生証が使えるアプリ <http://my.snu.ac.kr/mysnu/>

식사 学食の営業時間と今日のメニューが確認できる。

これらのアプリはソウル大学で学生生活をする上で欠かせない重要で便利なアプリだったので、これからソウル大学に留学する場合はこれらのアプリを落としてチェックしてみると最初の慣れないうちには大きく役に立つでしょう。

アクセス

私は実家から大学に通ったため、留学生寮に入らなかったです。ソウル大学の最寄駅であるソウル大入口駅からキャンパス行くまではバスで15分以上かかるため、キャンパス内にある寮に入ることをお勧めします。

寮に住む場合はバスで約15分でキャンパスに着きます。また、寮以外の場所からキャンパスに行こうとする場合、授業がある建物がどれかによってキャンパスの行き方も異なってきます。

社会学関連の授業ならソウル大の正門から近いので、ソウル大入口駅からバスに乗った方が良いですが、人文系の授業や図書館に行きたい場合はソウル大入口駅からもう一駅先のナクソンドン駅に降りて、マウル08というバスで行った方が近いです。(ノチョンカンダン停で降車)最初のうちにはかなり道に迷いますが、ソウル大のキャンパスマップの専用アプリがあるのでそれもダウンロードしておくに役立ちます。

キャンパスは東大の本郷キャンパスと比べてもはるかに広く、キャンパス内で移動するためには循環バスを使うことが多いです。基本的に山の上にキャンパスがあるので坂が激しく、日本のように自転車でキャンパス内を移動することは厳しいです。

図書館

図書館に入るためには学生証が必要ですが、実際の学生証でなくても、mySNUアプリで電子学生証(QRコード)が使えるので、毎回学生証を持ち歩かなくても図書館に入ることができます。

駒場図書館との違いは、中央図書館にたくさんの勉強できるスペースがあり、延滞した場合は、延滞した日数ごとに100ウォンずつ罰金がつくことです。

図書館にはカフェのような休憩スペースがあり、本を借りなくても飽きコマに時間を過ごせる快適なスペースがたくさんあるのでぜひ使ってみてください。

また、複数の人数が同時に使える多目的セミナールームや、自習できる学習スペースはいつも賑わっているため、事前にアプリやウェブで空席を確認し、予約する必要があります。図書館内部のスクリーンやアプリで空席の数や、席の予約もできるので学生証番号などで予約できます。

ソウル大生との交流

韓国についてすぐ他の交換留学生や、ソウル大生と交流するためにはSNU Buddyに入ることをお勧めします。これも新学期が始まる前にSNU Buddyからメールが届くので、送られてきたリンク先で入会を申し込めます。韓国に初めてきた留学生のための交流イベントや、buddy制度と言って、韓国人のソウル大生とペアで友達になれるのでいいと思います。ただ、このサークルに入るためには留学生のオリエンテーション日に入会費5,000ウォンを払わないと後から入会することはできません。ただ私の時は東大の都合でその留学生のためのオリエンテーションに参加できず、それより後で韓国に渡航させられたので入会できませんでした。ぜひ大学のオリエンテーションに参加し、このサークルにも入会すると様々な出身の学生たちと交流することができます。

単位交換

私は韓国に留学する前にすでに卒業単位を全て揃えていたので、単位交換は計画していませんでした。また、東大の留学先での単位交換の申請期間は年に2回、3月と10月しかできなかつたので、留学の翌年に卒業しようとしていた身としては、どのみち単位を交換することは無理でした。これは東大の単位交換制度の申請期間がアメリカなど欧米の大学のスケジュールを想定していることが原因で、キャンパスアジアの留学プログラムを通して単位交換を考えている人は、単位交換の申請にかかる時間も考慮しなければいけません。

また、自分の所属学部によって規定が異なる場合が多いので、自分で留学に行く前に担当教員や教務課に確認し、自分が留学先で取りたいと思っている授業と互換できそうな授業があるか確認しておく必要があります。

最後に、卒業に必要な単位と、留学先での授業の単位がどの単位として認められるか事前によく確認してから履修の計画を立てることが大事です。

奨学金

奨学金は毎月、自分がソウル大に登録した韓国の銀行口座に80万ウォン（8万円）が振り込まれます。この奨学金だけで韓国で生活することは不可能ではありませんが、贅沢はできません。外国人の身分でバイトをすることは難しいので、東大の短期留学奨学金制度に申し込むか、トビタテなど併願可能な奨学金を探してみるのもいいかもしれません。

基本的に留学先の大学で何か困ったことがあった場合は、ソウル大学の自由専攻学部の事務室に行くなり、担当のキム・チャンミ先生に連絡することをオススメします。また、ソウル大学の経営学部の建物には東京大学のソウル支局があり、そこには日本語が話せるスタッフの方々がいらっしゃるのでそちらに連絡をするのもいいかもしれません。

